

## (近刊著書紹介) 佐藤佳弘著 『インターネットと人権侵害』

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-06-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐藤, 佳弘 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://mu.repo.nii.ac.jp/records/546">https://mu.repo.nii.ac.jp/records/546</a>

(近刊著書紹介)

## 『インターネットと人権侵害』

(佐藤佳弘、武蔵野大学出版会、2016年1月刊)

佐藤 佳弘

### ◆ 被害が広がるネット人権侵害

「今回も人権侵害だ」オフィスに来た講演依頼のメールをチェックする度に、私はネットがもたらした問題の大きさを思い知らされる。私はありがたいことに、年間50件ほどの講演依頼をいただく。特に宣伝や営業活動をしているわけではないにも関わらず、依頼されるテーマの8割は「インターネットにおける人権侵害」である。

インターネット上の人権侵害に悩んでいる人は多い。誹謗中傷、虚偽のうわさ、悪口、侮辱、脅迫、一方的な批判、パッシング、プライバシー侵害、リベンジポルノ、ハラスメント、偏見差別など。匿名を隠れ蓑にした悪質な書き込みの被害に遭い、警察や人権擁護機関に相談する人の数は、ネットの普及に伴って増加する一方である。

ネット人権侵害の問題の大きさは、講演の依頼主の分野が多様であることにも表れている。農林水産省、総務省自治大学校、東京都産業労働局、東京都総務局、横浜市水道局、公共職業安定所、全国各地の自治体、県教育庁、教育委員会、小中高校、PTA、一般企業、協会、公益財団法人など依頼主の分野は多様である。

また、参加する対象者の属性も様々である。対象者は、行政職員、教職員、保護者、児童・生徒、企業の雇用主、役員、従業員、採用担当者、公正採用選考人権啓発推進員、人権擁護委員、一般市民などなど。この幅の広さは、ネット人権侵害が年齢、性別、職業に関係なく、多くの人に関わる問題になっていることを示している。

### ◆ 一筋縄ではいかない対処

講演の主催者や参加者の方々と接する度に、ネット人権侵害の被害がいかに深刻であるかを実感する。そして、強く思うことは、被害者に寄り添い、その痛みを理解して、適切に助言することが必要だということである。しかし、残念ながら、被害者自身も相談を受けた側も、どう対処したらよいかかわからずに困っているのが現実である。

それもそのはず、ネットの中傷書き込みへの対処は簡単ではない。壁に貼られた中傷ビラならば、剥がせば良いだろう。しかし、ネット上の書き込みは簡単に消すことができない。面倒な手続きが必要だったり、交渉先が複数あったり、書き込んだ本人でさえ削除できなかったり、と事情が複雑である。しかも、所定の書式を提出して削除依頼の手続きさえ踏めば、あとは法に則り自動的に削除されるというわけではない。法は削除を義務化しておらず、従って実質的な削除率は低いのである。壁に貼られたビラに比べると、ネットに書き込まれた中傷への対応には、専門知識が必要であり多大な費用も手間もかかる。その末に削除

できる保証もない。

また、書き込んだ犯人を特定することも簡単ではない。多くは司法手続きを必要とし、これに弁護士の力を借りれば費用が発生する。その結果、犯人を特定できるとは限らない。日本の法の外にある海外のサーバーを利用していけば特定は困難である。仮に運よく特定できたとしても、それは発信元の端末にすぎない。不特定多数が利用するネットカフェや学校に設置された端末であれば、今度は利用者の洗い出しをすることになり、発信者の特定には困難を極める。

このような状況であるため、発信者に対して刑事的な責任を問うことも、民事的な責任を問うこともままならない。被害者にとって、ネット人権侵害がいかに理不尽なものであるか理解できるだろう。かといって、「たまたま私が知ってしまったからいけないのだ。見なかったことにしよう」という大人の対応は厳禁である。ネット上の悪質書き込みを放置すると、日本国中のどこからでもいつでも誰でも読める状態が続くのである。それはさしずめ、駅前の電柱に中傷ビラが貼られているようなものである。時間の経過とともに多くの人が目にすることになる。たとえ内容が虚偽であったとしても、事情を知らない人にとっては、真偽を判断できない。そのため、書き込みは悪評となって拡散していくのである。

#### ◆ 文明の利器の宿命

ネットはなぜ人を不幸にするのか。それはプロメテウスの火がよく物語っている。プロメテウスとは、ゼウスの命令に背き、人類が幸せになると信じて人類に火を与えたとされるギリシャ神話の神である。火を使えるようになった人類は、文明を発達させた。しかし、その一方で、火を使って武器も作り、戦争を始めるに至った。

利便性が高いものほど、悪用、誤用した時の危険は大きい。現代のプロメテウスの火と言われる原子力、コンピュータは、いずれも社会を革新させるほどの大きな力を持ちながら、人類が正しく利用しなかった時の被害もまた甚大である。

インターネットによる人権侵害の現状を見るにつけ、便利な道具を正しく使うことの重要性を痛感する。間違った使い方をすると便利な道具は危険な道具に変わる。まさに便利なネットも誤用・悪用されることで、人権侵害の道具となり、人を不幸にしているのである。

使い方次第という言葉は、手垢が付いた言葉であり、しごく当たり前のことを言っている。火器しかり、薬物しかり、自動車しかり、使い方次第であることは、文明の利器の宿命といえる。インターネットも例外ではない。

#### ◆ 安心安全なネット利用のために

本書は、ネット人権侵害の現状と対処方法をわかりやすく解説している。本書の前半では、ネット人権侵害の現状を紹介している。読者は、ネットの便利な機能がことごとく人権侵害の道具になっていることに驚くだろう。また、後半では、対処や対策を紹介している。ネット人権侵害の問題がいかに複雑であるか、そして社会の取り組むべき課題がいかに多いかを知ることだろう。

インターネットは、資格審査もなく、年齢制限もなく、誰もが使える便利な道具である。

しかし、使い方を誤れば、人権を侵害する道具にもなる。誰もが被害者になる危険性があり、同時に加害者になる可能性もある。知識を持たずにネットを利用するのは、地雷が埋まっている危険地帯を能天気スキップしているようなものである。いつ被害者になっても、いつ加害者になってもおかしくない。しかし、前もってどこに地雷があるのかわかっていれば、危険を避けながら安全にネットを使うことができるはずだ。だからこそ、すべてのネット利用者には正しい知識を持ってもらいたい。

本書の知識を、ぜひ仕事や生活の中に役立てて、安心安全なネット利用をしていただきたいと願うものである。